

小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社 第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

第5学年 題材1「歌声をひびかせて心をつなげよう」

♪ 曲の特徴を生かして、明るい声で歌いましょう。 「こいのぼり」(2時間)

●今 何をする?●

★歌詞は七五調の文語体で、旋律もそれを生かしたものになっています。授業では、歌詞を覚えることから始めます。次に、歌詞の意味を知ったあと、指導用CDの範唱などを聴いて情景を想像しながら日本語の美しさを感じ取れるようにします。また、特徴的なリズムや強弱、言葉を生かした表現の工夫なども行います。なお、実際に気持ちを合わせて歌う活動は後日とします。

☆準備するもの等

- ・拡大した縦書きの歌詞や楽譜(電子黒板や拡大提示装置を活用してもよい)
- ・教科書の挿絵写真「こいのぼり・かわら屋根・たちばなの花」の教師用デジタルデータ(指導書にセットのCD-ROM。教科書紙面から抜粋した画像データが収録されている)
- ・表現の工夫を書き込む楽譜のプリント(3番までの歌詞を含む)

1 見て、聴いて

◎「歌詞の内容を理解し、情景を想像しながら音楽を聴こう！」

- (1) 歌詞を見ながら教師の範読を聴き、言葉のまとまりに気を付けて歌詞を覚える。
 - ・七五調の「七」の部分の範読を聴いて、「五」の部分の歌詞を頭に思い浮かべる。
 - ・歌詞を覚えたら、難しい語句を教科書の説明や写真を参考にして、情景や大意をつかむ。
- (2) 指導用CDの範唱を聴き、全体の感じをつかみ旋律を覚える。
 - ・繰り返し聴いてもよい。歌詞は見ない。分からない部分は歌詞を見て確かめる。
 - ・曲の途中で、何度かボリュームを絞って音なしで聴いても、旋律が思い浮かぶかどうか確かめる。

2 聴いて、感じて

◎「リズムや強弱などの曲の特徴について調べ、曲にふさわしい表現を工夫しよう！」

- (1) **タッカ**のリズムに着目して曲想と音楽の関わりについて考える。
 - ・もとの旋律と、**タッカ**を**タタ**のリズムに変えた旋律との歌い比べを聴く。
 - ・**タッカ**のリズム部分の音の上り下がりについて確認する。
 - ・歌詞と関わって、感じたことや気付いたことを楽譜プリントに書き込み、発表する。例)**タッカ**のリズム：勇ましい。瓦の形みたい。1つだけ下行であとはすべて上行。
- (2) 旋律の音の動きや強弱記号から、曲の山を見付け、歌い方の工夫を考える。
例) 1段目と2段目が同じ音型。3段目がmpで橘の花が香る感じ。4段目がfで音符も長くなり盛り上がる(曲の山)。七五調だけれど「4+3, 3+2」など言葉を分けられ、同じ旋律でも言葉によってリズムのまとまりが異なる。

●評価

態 曲の特徴を感じ取って聴く学習に、友達と協働して、主体的に取り組もうとしている。

思・判・表 曲想と歌詞の内容や音色、リズム、旋律の反復や変化、強弱との関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

知 曲想と歌詞の内容や音色、リズム、旋律の特徴、強弱との関わりを理解している。

●これからどうする?●

教科書 p. 15 の二次元コードからも曲について知ったり範唱を聴いたりして、家庭学習に生かすようにします。歌詞を確実に覚えることで、旋律の流れも身近となり一人でも歌えるようになります。

第5学年 題材3 「いろいろな音色を感じ取ろう」

♪ いろいろな楽器の音が重なり合う響きを楽しみながら演奏しましょう。「リボンのおどり」(3時間)

●今 何をする？●

★「リボンのおどり」はリコーダーや鍵盤ハーモニカなどを含めた器楽教材ですが、旋律楽器は鍵盤楽器に変えます。合奏を楽しみながらいろいろな音色を感じ取り、後日、楽器を加えて工夫した表現を発表できるようにします。

☆準備するもの等

- ・拡大楽譜、音楽授業支援 DVD、キーボード(できれば2台)、木琴、鉄琴、低音楽器、タンブリン、小太鼓など(各楽器のバチは複数組)、消毒用アルコール
- ・曲の構成を書き込むワークシート(もしくは指導書実践編 p.93)

1 見て、聴いて、演奏する

◎「各パートの旋律の特徴をつかんで演奏しよう！」

- (1) 拡大楽譜を見ながら指導用CDを聴き、曲全体の感じをつかむ。
 - ・リコーダー1, 2のパートに階名を書き、範奏に合わせて指で差しながら追う。
 - ・続いて木琴、鉄琴のパートも同様に指差しで追う。アクセントの意味についても知る。
 - ・打楽器の2つのパートを手拍子で打ってリズムを覚える。前奏として4拍打つとよい。
 - ・授業支援DVDなどで、ヘ音譜表の読み方やヘ音記号について知る。
 - ・低音のパートに階名を書き、範奏に合わせて指差しで追う。模擬鍵盤奏をしてもよい。
- (2) 5つのパート(楽器)を教室の中でそれぞれ離れるように配置し、交替して練習する。
 - ・練習時間を分けて人が密集しないようにする。また、バチや鍵盤は交替時に消毒する。
 - ・ある程度パート練習ができてきたら、ピアノ伴奏や指導用CDに合わせて演奏する。

2 聴いて、感じて、工夫する

◎「重なり合う響きの変化の面白さを生かして、表現を工夫しよう！」

- (1) グループで演奏する楽器を決めて、曲の構成を考えて表現を工夫する。
 - ・曲全体のまとまりを考えながら、グループで演奏の仕方を工夫する。このとき、クラスの人数が多い場合は、一斉に練習をするのではなく、密集を避けて、「リズム打ち」「構成を考える」など、役割を分けて時間を決めて交替で行うようにする。

3 演奏して、聴き合い、工夫を感じ取る

◎「グループで工夫した《リボンのおどり》を発表しよう！」

- (1) 工夫したことを振り返り、音量のバランスに気を付けて、拍ののってグループで演奏する。
 - ・感想が書かれたプリントは、後日、教師がまとめてプリントにし、相互評価に役立てる。

●評価

- 1 **知・技** 曲想と音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりを理解し、ト音譜表やヘ音譜表の楽譜を見て演奏する技能を身に付けて演奏している。
- 2 **思・判・表** 楽器の音色、各声部の重なりや響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。
態 楽器の音色やいろいろな音が重なり合う響きに興味・関心をもち、パートの重ね方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。
- 3 **知・技** 楽器の音色や各声部の重なりによる響きと演奏の仕方との関わりを理解し、各声部の響きや全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。

●これからどうする？●

ここでの活動は、楽器の音色を手掛かりに鑑賞の学習や、曲や旋律等に合う楽器を選択して合奏する学習などにつながる大切な学習です。音量のバランスにも気を付けられるとより効果的に演奏できます。

第5学年 題材4「和音の移り変わりを感じ取ろう」

♪ 和音の移り変わりを感じながら演奏しましょう。 「静かにねむれ」(2時間)

●今 何をする？●

★題材2「音の重なりを感じ取ろう」は、現状を踏まえると設定しづらいので9月以降に移し、題材4「和音の移り変わりを感じ取ろう」を先に取り上げます。伴奏の和音を聴き取って演奏できると、歌や楽器を演奏する活動が再開されたときに、これまでとは一味違った旋律表現が可能となります。旋律と和音の関係を感じ取りやすい教材ですので、実際に音を出したり体の動きを大きく使ったりして、聴き取り感じ取ったことを表すとよいでしょう。

☆準備するもの等

- ・拡大楽譜、音楽授業支援 DVD、旋律用：キーボード・鉄琴(1台)、和音伴奏用：木琴(3台)、低音楽器(テナー・バス木琴でもよい)など(バチは複数組あるのが望ましい)、除菌ウェットティッシュや消毒用アルコールなど

1 聴いて、感じて

◎「ハ長調の主要な和音の響きを感じ取りながら、和音と低音のパートを演奏しよう！」

- (1) 拡大楽譜を見ながら指導用CDの範唱を聴き、曲の特徴や構成を捉える。
 - ・鍵盤1のパートが和音、鍵盤2のパートが低音となっていることを理解する。
- (2) 旋律、和音、低音の各パートに階名を付けて、指導用CDに合わせて旋律をたどる。
 - ・1小節に4拍入る(4分の4拍子である)ことを理解し、楽譜上を指先で拍打ちして追う。
 - ・教師の範奏に合わせて各パートを順に追っていくようにする。このとき、クラスをいくつかのグループに分けて活動を見合わせることで、全員の理解を図ることができる。
 - ・音楽授業支援DVDを見て「ハ長調の和音」について知る。「和音の転回形」の説明動画もぜひ利用したい。

2 演奏して、感じて

◎「和音と低音の響きの移り変わりを感じながら、旋律を演奏しよう！」

- (1) 和音3パート、低音1パートに分かれて伴奏部分を、交代しながら木琴で演奏する。
 - ・木琴は教室の4隅に離して配置する。また、演奏に当たっては全音符や2分音符を4分音符(×4や×2)に置き換える。教師は拍打ちをして、速くならないようにするとよい。
 - ・伴奏を聴きながら、教科書p.35下図のように体を動かして和音の響きの違いを感じ取る。
- (2) 主な旋律と伴奏を演奏し、和音の響きの変化と旋律の動きが一体となった響きを味わう。
 - ・主な旋律と低音、主な旋律と和音(鍵盤1)というように、2つのパートを重ねて演奏する。
 - ・小節線(縦線)などで移り変わる和音の響きの変化に注意して聴く。

●評価

- 1 **態** ハ長調の和音の響きやその移り変わりに興味・関心をもち、それらの美しさを感じ取りながら演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。
- 2 **知** 曲想と旋律、和音の響き、調との関わりを理解している。
技 和音の響きやその移り変わりを感じ取りながら、旋律や伴奏の音を聴いて表現する技能を身に付けて演奏している。

●これからどうする？●

教科書p.35の二次元コードを使い、長調の和音(ハ長調)の響きを家庭でも確かめることができます。また、鍵盤1の和音演奏については、指導書実践編p.39の「学習の支援4」を参考にするとよいでしょう。

第5学年 題材4「和音の移り変わりを感じ取ろう」

♪ 和音の移り変わりを感じ取りながら合唱しましょう。 「こげよ マイケル」(2時間)

●今 何をする？●

★合唱の学習ですが、和音の聴き取りやその響きを感じ取ることに着目して「歌わないで」扱います。「歌って」表現する活動が可能となったときには、これらの能力が発揮できるようにします。ここでは、「聴く」活動を通して、その素地を育みます。

☆準備するもの等

- ・指導用CD(歌唱, 階名唱①, 階名唱②, 階名唱③, カラピアノ) ・鑑賞用CD(原語)
- ・拡大楽譜 ・指導書実践編付録「掲示物用印刷サンプル」(ドレミ風船)

1 聴いて, 感じて

◎「演奏を聴いて, 曲の特徴を感じ取ろう！」

(1) 曲の特徴を感じ取って聴く。

- ・指導用CD(歌唱)を聴き, 斉唱と合唱が交互になっていることに気付くようにする。
- ・教科書p.37の挿絵を参考にして, 音楽には, 会話をしている感じや, 一人の呼びかけにみんなが応えるときのような, 「呼びかけとこたえ」があることを知る。

(2) 歌詞「ハレルヤ」の部分で3つのパートの音の重なりが和音になっていることを知る。

- ・1つずつのパートを鍵盤楽器でゆっくり範奏した後, 合わせて演奏するとよい。または, 階名唱用の指導用CD①②③を用いたあとに指導用CD(歌唱)を聴かせてもよい。
- ・鑑賞用CDの参考曲「こげよ マイケル」を, 声の音色の違いを味わって聴く。
- ・主な旋律の①パートを階名で覚える。音の高さの上下に合わせて手や体を動かす。
- ・指導書実践編の付録「掲示物用印刷サンプル」(ドレミ風船)も活用するとよい。

2 聴いて, 動いて

◎「和音の響きやその移り変わりを感じながら聴こう！」

(1) [斉唱で呼びかけ], [合唱で応える] 形を手や体の動きで表現する。

- ・②と③のパートも階名を覚え, 手や体の動きで表現できるようにする。キーボードなどで音を示してもよい。このとき, 夢中になって密集した形態にならないように注意する。
- ・①は教師が, ゆっくりした階名唱+手や体の動きで行い, ②③を子供たちが手や体の動きのみで行う。このとき, 「見ているだけ」のパートもつくと, 授業にゆとりと客観性が生まれ, 全体に意欲も高まる。

●評価

1 **知** 曲想と旋律, 和音の響き, 調との関わりを理解している。

思・判・表 曲想と音色や音の重なり, 和音の響きの違い, 呼びかけとこたえとの関わりについて考え, 声を合わせて曲の特徴にふさわしい表現を工夫し, どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

2 **態** 和音の響きやその移り変わりに興味・関心を持ち, 友達と協働して和音の響きの美しさを感じ取りながら合唱する学習に主体的に取り組もうとしている。

●これからどうする？●

声が出せるようになれば, 歌詞を付けて部分3部合唱をします。その際, 様々な演奏形態を試すようにします。聴いている友達も, 「譜例」にあるような後打ち手拍子を入れるとさらに楽しくなります。